

一番好きな歌・嫌いな歌—大学生の調査より—

村上 晴美・米澤 好史

(大阪市立大学 学術情報総合センター・和歌山大学 教育学部)

Keywords: 大学生、歌、好み、気分

1. はじめに

本研究の長期的な目的は日常生活における歌の記憶と好みの解明である。これまで歌の記憶に焦点をあててきた[1]が、被験者がどのような歌を覚え、好んでいるかに関しては個人差が大きいため基礎的なデータが必要であると考えた。本稿では大学生の一番好きな歌と嫌いな歌のデータを収集し、好き(嫌い)な要因と性差の特徴を分析する。

2. 方法

2.1 対象者

和歌山大学の教育学部、経済学部、システム工学部の学生 340 人(平均 19.4 歳、男性 188 人、女性 152 人)。

2.2 手続き

- (1) 一番好きな歌と嫌いな歌とそのアーティストを記述させる。「特になし」という選択肢を与える。
- (2) 一番好きな歌と嫌いな歌について、(a) 詞、曲、タイトル、アーティスト、声、演奏についてどの程度好き(嫌い)か 7 段階で判定(1:非常に好き、7:非常に嫌い)させ、(b) 好き(嫌い)な理由を記述させ、(c) どのような気分になるか記述させる。本稿では(a)を要因評価、(b)を理由記述、(c)を気分記述と呼ぶ。

調査は 2000 年 7 月に行った。

3. 結果

3.1 一番好きな歌

「特になし」が 38 人(11%)。判定できる記入のうち 91% が邦楽であった。男性は 1 位「桜坂(福山雅治)」4 人、2 位「winter, again (GLAY)」歌うたいのバラッド(齊藤和義)、「TSUNAMI(サザンオールスターズ)」各 3 人で、女性は 1 位「未来予想図 II (Dreams Come True)」7 人、2 位「桜坂(福山雅治)」6 人、3 位「からっぽ(ゆず)」5 人であった。アーティストを分析したところ、男性は 1 位「男性グループ(50%)」、2 位「男性ソロ(18%)」の順であり、女性は、1 位「男性グループ(38%)」、2 位「女性ソロ(22%)」、3 位「女性がボーカルの男女グループ(17%)」の順であった。

要因評価では、曲(1.23)、声(1.34)、詞(1.44)、アーティスト(1.49)、演奏(1.54)、タイトル(1.77)の順に好きな度合いが高く、性差はほとんど見られなかった。

理由記述から第一著者が抽出した要因に関して分析したところ、主なものは、詞(137 人)、曲(127 人)、アーティスト(56 人)、声(47 人)、気分変化¹(42 人)、共感(37 人)、思い出(21 人)であった。男性は演奏、女性は思い出に関する記述が他方と比べて多かった。

気分記述に関して同様に分析したところ、男性は 1 位「落ち着く」21 人、2 位「ハイテンションになる」9 人、3 位「頑張ろう」「元気になる」各 7 人で、女性は 1 位「落ち着く」24 人、2 位「せつなくなる」22 人、3 位「元気になる」11 人、4 位「うれしくなる」「頑張ろう」各 7 人であった。

3.2 一番嫌いな歌

「特になし」が 187 人(55%)。判定できる記入のうち 99% が邦楽であった。男性は 1 位「某演歌(男性)」5 人、2 位「君が代」3 人であり、女性は 1 位「君が代」5 人、2 位「某児童歌(男女グループ)」、「某ポップス(女性グループ)」各 3 人であった。

要因評価では、アーティスト(5.96)、声(5.88)、詞(5.69)、曲(5.57)、演奏(5.53)、タイトル(5.35)の順に嫌いな度合いが高く、性差はあまり見られなかった。

理由記述を分析したところ、主なものは、アーティスト(28 人)、曲(23 人)、詞(23 人)、気分変化(17 人)、歌い方(13 人)、声(9 人)、思い出(6 人)の順番であった。男性は女性よりも、システム工学部の学生は他と比べて演奏の嫌いな度合いが少なかった。

気分記述を分析したところ、男性は 1 位「むかむか」5 人、2 位「嫌」「いらいら」各 4 人であり、女性は 1 位「むかむか」9 人、2 位「いらいら」8 人、3 位「嫌」5 人であり、性差はあまりなかった。

4. 考察

4.1 一番好きな歌

一番好きな歌は人によって異なる。共感や思い出が人によって異なるからであると考えられる。男性グループの歌以外では、男性は男性の歌、女性は女性の歌を好む。被験者の意識する理由としては詞の要因が大きいことが最も共通する特徴であるが通常は意識していないこと、意識、言語化する理由として詞の持つ力が強いことがわかる。

一番好きな歌の主な効果は気分の沈静効果である。男性の場合は抑揚効果が高い人も多い。好きな歌がせつない歌であるのはやや女性的な特徴である。

4.2 一番嫌いな歌

一番嫌いな歌は自分の意思とは無関係に強制的に聞かされる歌である。歌自体よりも歌にまつわる何か(アーティストや歌い方や経験等)をより嫌っており、これらが不快感の基となっている。男女ともに「怒りと嫌悪」に関する感情が共通であり不快感に性差は少ない。

5. おわりに

大学生は全般的に歌(邦楽ポップス)が好きであり、一番好きな歌は主として気分を落ち着けるツールとなっている。全体的に性差はあまりないが、一番好きな歌に関しては、男性が男性の歌、ハイテンションになる歌、演奏を好み、女性がせつなくなる歌、思い出にまつわる歌を好むなどの傾向がみられた。

文献

[1] 村上・米澤：日本人の歌の記憶 - 質問紙を用いたタイトルからの再生 - , 認知科学(採録決定), 2002

(MURAKAMI Harumi, YONEZAWA Yoshifumi)

¹ 「落ち着く」「元気になる」など、気分の変化に関わる内容を本稿では気分変化と呼ぶ。